

久留米工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	リベラルアーツ特論1 (デジタル人文学)
科目基礎情報					
科目番号	4AR01	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械工学科	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	教科書は使用せず、適宜資料を配布する。参考書については、各テーマに関連するものを授業内で紹介する。				
担当教員	常木 佳奈				
到達目標					
<p>1. 人文学研究の意義を正しく理解し、先行研究を的確にレビューできる。</p> <p>2. アーカイブされている文化資源の特性を正しく理解し、既存のアーカイブを的確に批判することができる。あわせて、文学作品や文化に対して、敬意を払って接することができる。</p> <p>3. 先行研究や既存のアーカイブなどを参考にオリジナルなデジタルヒューマニティーズ (以下、DH) 型プロジェクトの企画案を作成し、その内容をプレゼンテーションできる。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	人文学研究の意義を正しく理解し、先行研究を的確にレビューできる。	人文学研究の意義を理解し、先行研究をレビューできる。	人文学研究の意義を理解し、先行研究をレビューできない。		
評価項目2	アーカイブされている文化資源の特性を正しく理解し、既存のアーカイブを的確に批判することができる。	アーカイブされている文化資源の特性を理解し、既存のアーカイブを批判することができる。	アーカイブされている文化資源の特性を理解し、既存のアーカイブを批判することができない。		
評価項目3	先行研究や既存のアーカイブなどを参考にオリジナルなDH型プロジェクトの企画案を作成し、その内容をプレゼンテーションできる。	先行研究や既存のアーカイブなどを参考にDH型プロジェクトの企画案を作成し、その内容をプレゼンテーションできる。	先行研究や既存のアーカイブなどを参考にDH型プロジェクトの企画案を作成し、その内容をプレゼンテーションできない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	デジタルヒューマニティーズ (以下、DH) とは、さまざまなデジタル技術を用いて文化資源にアプローチするという、文理融合型の学際的な学問分野を指すことばである。本授業ではテキストや古典籍、絵画作品 (浮世絵・木版口絵) などの日本文化資源を中心に、それらに関連するデータベースを取り上げ、より良いアーカイブの構築に向けて議論を深めていく。授業を通じて、人文学研究の意義を正しく理解し、先行研究や既存のアーカイブを的確にレビュー・批判する力を身に付けるだけでなく、文学作品や文化に対して敬意を払って接する態度を養ってほしい。また、議論やプレゼンテーションを行う際には、自身のコミュニケーション能力の向上に積極的に努めることも期待する。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・2~3週目には、DH関連の先行研究をレビューする。指定された論文などを読み、各自、担当箇所について解説できるよう、準備をしていくこと。 ・4~9週目には、既存のアーカイブ批判を行う。指定されたデータベースやWEBサイトをあらかじめ閲覧し、アーカイブされている文化資源の特性などを整理しておくこと。 ・10~15週目には、先行研究や既存のアーカイブなどを参考にオリジナルなDH型プロジェクトの企画案を作成し、そのプレゼンテーションを行う。資料作成のための準備時間を授業内に設けるが、時間が不足する場合は各自で準備を進めておくこと。 				
注意点	<p>【事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業の進め方」参照。詳細については、授業内で指示する。 <p>【成績評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満点を100点とし、60点以上の者を合格とする。 ・授業への参加度 (課題・発言など) 40%、最終プレゼンテーション60%を目安として評価する。 ・授業への参加度を考慮し、必要と認めた場合、補充レポートなどを課す。 				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 授業の進め方について DHの歴史、基本的な考え方	DHの歴史と基本的な考え方を理解できる。	
		2週	DH型プロジェクト研究のレビュー①	指定された論文などを読み、担当箇所を的確にレビューできる。	
		3週	DH型プロジェクト研究のレビュー②	指定された論文などを読み、担当箇所を的確にレビューできる。	
		4週	浮世絵とアーカイブ① (「浮世絵ポータルデータベース」ほか)	既存のアーカイブを批判し、より良いアーカイブに向けて議論を深めることができる。	
		5週	浮世絵とアーカイブ② (「IIIF」ほか)	先行研究をもとにし、DH型の文学・美術研究の着眼点や方法を理解できる。	
		6週	古典籍とアーカイブ① (「古典籍ポータルデータベース」ほか)	既存のアーカイブを批判し、より良いアーカイブに向けて議論を深めることができる。	
		7週	古典籍とアーカイブ② (くずし字解読関係のシステムほか)	先行研究をもとにし、DH型の文学・美術研究の着眼点や方法を理解できる。	
		8週	テキストとアーカイブ① (「青空文庫」ほか)	既存のアーカイブを批判し、より良いアーカイブに向けて議論を深めることができる。	
	2ndQ	9週	テキストとアーカイブ② (「KH Coder」ほか)	先行研究をもとにし、DH型の文学・美術研究の着眼点や方法を理解できる。	
	10週	近代木版口絵とアーカイブ (「近代木版口絵ポータルデータベース」ほか)	DH型プロジェクトの立ち上げから遂行までを理解し、最終プレゼンテーションへ向けて構想を膨らませることができる。		

		11週	最終プレゼンテーションの準備①	特定の文化資源を取り巻く背景について整理できる。また、その文化資源の特性を正しく理解できる。
		12週	最終プレゼンテーションの準備②	特定の文化資源を取り巻く背景について整理できる。また、その文化資源の特性を正しく理解できる。
		13週	受講生によるDH型プロジェクトの企画案発表①	先行研究や既存のアーカイブなどを参考に、オリジナルなDH型プロジェクトの企画案を作成し、その内容をプレゼンテーションできる。他者のプレゼンテーションに対して、的確な指摘・質問ができる。
		14週	受講生によるDH型プロジェクトの企画案発表②	先行研究や既存のアーカイブなどを参考に、オリジナルなDH型プロジェクトの企画案を作成し、その内容をプレゼンテーションできる。他者のプレゼンテーションに対して、的確な指摘・質問ができる。
		15週	最終プレゼンテーションの講評、DHの未来	これまでの授業を振り返り、DHの未来について考えることができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		授業への参加度	最終プレゼンテーション	合計	
総合評価割合		40	60	100	
基礎的能力		40	60	100	
専門的能力		0	0	0	
分野横断的能力		0	0	0	